

『日米同盟』

相手を攻撃するのはアメリカ軍、 そのアメリカ軍を防衛するのは 日本の自衛隊との役割分担で充分か？

北朝鮮の「核実験」がアメリカの制止を無視して行われた。

爆発の規模160キロトン（TNT火薬換算）は、72年前にヒロシマに投下された原爆の10倍に相当する。北朝鮮の「刈上げクン」の発表によると今回は「原爆」ではなく『水爆』であるという。

『水爆』は重水素の熱核反応を利用した核兵器。実験直後に起きた地震はマグニチュード6.1。起爆剤に核分裂の「核爆弾」を使う核融合方式の『水爆』である。『水爆』は太陽とおなじ核融合なので核分裂方式の爆弾に比べ威力が段違いに大きい。

『水爆』より実行性の高い、即・使用可能な攻撃は『水爆』核実験を契機に北朝鮮が盛んに言い出したEMP（電磁パルス）兵器だ。

核爆発で生じる電磁波でコンピューターなどをマヒさせる攻撃手法はハイテ

ク兵器を使用不能にし、コンピュータ制御に依存するアメリカや日本のネットワークを破壊する。

ある意味で、超近代戦をエレクトロニクス皆無の状態の戦争と化してしまうのだから、ハイテクな軍事力を持つ先進国



家ほど無力化して混乱する。

「刈上げクン」が間もなくもう一つプレゼントがある、という。

推測するにグアムの米軍基地のはるか上空で核爆発させてEMP（電磁パルス）による脅迫ではないのか？

「2004年に北朝鮮はロシアのEMP技術を獲得した。」という。

北朝鮮が最初の攻撃手段として核ミサイル攻撃より「EMP弾」を使う可能性が高いとの見通しは有力だ。高高度で爆発させるため、大気圏再突入技術の確立を必要としない、からだ。

北朝鮮危機に関連し、自民党の河井克行・総裁外交特別補佐が、インドのニューデリーで「個人的には、自衛隊が中距離弾道ミサイルや巡航ミサイルを持つ可能性を真剣に検討すべき時期にきていると考える」と、講演している。

安倍首相側近の河井氏が「弾道ミサイル保有、検討すべき時期」

8月まで首相補佐官を務め、9月中旬



河井克行・総裁外交特別補佐

に予定されている首相訪インドの調整で河井氏はインドを訪問中だった。

余談だが中国は核ミサイルで日本とインドに狙いを定め、標的にしている。

日米同盟では「相手を攻撃するのはアメリカ軍」「防衛は自衛隊」と役割分担している。

日本は現在、相手のミサイルを（不十分ではあるが）撃ち落とせても、敵基地などを攻撃する能力を保有していない。いままさに、衛星からリアルタイムに見て我が国にミサイル発射寸前がわかって、そのミサイル基地をたたく武器も法律も整備されていない。つまり敵基地攻撃能力がない。

自衛隊の「敵基地反撃能力」

「中距離弾道ミサイル」や「巡航ミサイル」を持てば戦争の無い平和な世界になる。

早めに敵基地をたたけば我が国を未然に防げるのだが、左巻きの政治家や憲法学者のおかげサマで危険にさらされている。相手の敵だって反撃されることがわかれば、攻撃しようとは思わない。

「敵基地反撃能力」を持つことは「戦争抑止力」なのだが「頭でっかち」の左巻きは確信的に足を引っ張り妨害する。

河井氏のインドのニューデリー講演では、「北朝鮮のミサイルや核実験などの脅威」に触れた上で、日本を取り巻く安全

保障環境が「以前と比べて明らかに異なった段階に移った事実を認めなければならぬ」として、「日本の平和と繁栄を守るため」のミサイル保有に言及した。

アメリカの「核の傘」は無くなる

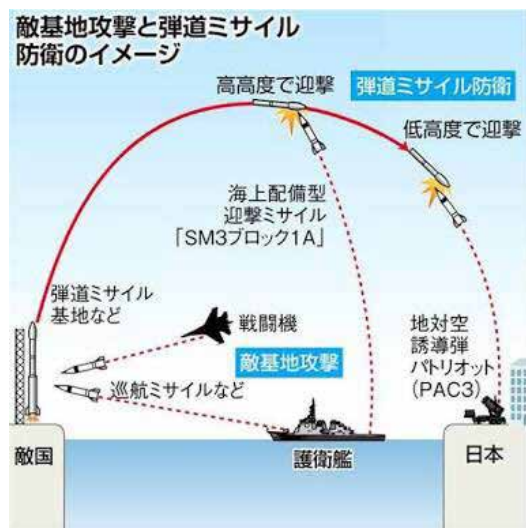
日本は今の所、《アメリカの「核の傘」》によって守られている。

しかし、「北朝鮮がアメリカに届く核弾頭ICBMを開発した」と「認定」されると、日本は「核の傘」から外れます。

考えればすぐにわかりますが「北朝鮮が日本を攻撃し、アメリカが反撃し、アメリカの大都市に核ミサイルが落ちる。」そうなればアメリカ人は何万人、何十万人の一般市民の犠牲を強いられます。

果たして、それだけの犠牲を払ってまで日本人を助けるでしょうか？

「可能性がある」というだけで、「日米



安保」は有名無実化するでしょう。

アメリカが「自国の都市が攻撃される可能性」を無視し、北朝鮮に対し軍事行動を起こすとは、思えないからです。

尖閣諸島に中国が領海侵犯をしている問題も同じです。現在、日本が実効支配していることをアメリカは認めています。「日米安保」として同盟国としてアメリカは中国の軍事力から尖閣諸島を護ると断言している。

このコメントを聞いて、おめでたい「お花畑の住人」は胸を撫で下ろしていますが誰も住んでいない、ただの無人島の岩をアメリカが護ってくれると思っているのか、中国も海兵隊を昇格し上陸用舟艇も配備した。いよいよ尖閣攻撃の実行段階。日本は早急に自衛隊を派遣し、簡単でもよいから軍事施設を建設し、日の丸の旗を立ててくるべきです。最初は数人、2週間ごとに交代していれば中国船が尖閣の海に近づくことはなくなるでしょう。

中国という核保有国が日本に核ミサイルを打ち込みたがっている

中国という核保有国が隣に存在し、彼らが日本に核ミサイルを向けている。アメリカの核の傘が無くなれば日本は自前で核武装をしなければなりません。

もうすでに他のページで書きましたが、

アメリカのオバマ政権で大統領補佐官(国家安全保障担当)を務めたライス氏は、「我々は北朝鮮の核兵器を容認してもよい」「韓国と日本にも自前の核開発を認めよう」と語っています。

北朝鮮は「核武装」を果し、日本に届く「弾道ミサイル」も数十発保有している、といわれています。それならば、もう時間の猶予はありません。

残虐非道の先軍国家「刈上げケン」の

「敵基地反撃能力」や「核武装」を急ぎ真剣に考えましょう。

